

2011-03-14 EDINET タクソノミ 対応

報告書インスタンス作成ガイドライン

2011 年（平成 23 年）3 月 14 日

金融庁 総務企画局 企業開示課

目 次

1.	はじめに	3
1-1	本書の目的	3
1-2	前提となる文書	3
1-3	本書の適用範囲	3
2.	報告書インスタンスの概要	4
2-1	報告書インスタンスとは	4
2-2	報告書インスタンスの作成単位	5
2-3	雛形インスタンス	6
2-4	サンプルインスタンス	6
3.	報告書インスタンスのファイル仕様	7
3-1	報告書インスタンスのファイル構成	7
3-2	報告書インスタンスの文字コード	8
3-3	報告書インスタンスのファイル名	8
3-4	雛形インスタンスのファイル仕様	10
3-4-1	雛形インスタンスの設定内容	10
3-4-2	雛形インスタンスのファイル名	10
4.	名前空間宣言	11
4-1	報告書インスタンスの名前空間宣言	11
5.	企業別タクソノミの参照	13
5-1	企業別タクソノミの参照方法	13
6.	コンテキストの定義	14
6-1	コンテキストの作成	14
6-2	命名規約	18
6-3	エンティティ要素の設定	19
6-4	コンテキストの期間時点 (period) 要素の設定方法	19
6-4-1	期首日時点のコンテキストの作成	19
6-4-2	決算期を変更した場合の設定	20
6-5	シナリオ要素の設定	21
7.	ユニットの定義	22
7-1	ユニットの設定	22
8.	インスタンス値の記載	23
8-1	金額の入力	23
8-1-1	数値の精度	23

8-1-2	キャッシュ・フロー計算書の勘定科目の設定方法	24
8-1-3	株主資本等変動計算書等の金額の設定	24
8-1-4	「該当なし」の設定	24
8-1-5	「△0(マイナスゼロ)」の設定	24
8-1-6	インスタンス値の設定に関する規約	24
8-2	文書情報の入力	26
8-2-1	開示対象者に関する情報の入力	26
8-2-2	XBRL文書に関する情報の入力	27
8-3	参照するコンテキストの設定	30
8-4	参照するユニットの設定	30
8-5	その他の留意事項	31
8-5-1	同一要素へのコンテキストの設定	31
9.	注記番号の記載	32
10.	その他	35
10-1	XBRLデータの修正再提出時の取扱いについて	35
10-2	XBRLデータの再利用について	35
10-3	株主資本等変動計算書等	35
10-4	検証に関する留意事項	36
10-5	外国会社等の円貨併記の取扱い	37
11.	各種命名規約	39
11-1	コンテキストID	39
11-2	コンテキストの設定例	40
11-3	ユニットID	52

1. はじめに

1-1 本書の目的

報告書インスタンス作成ガイドライン(以下「本書」という。)は、金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム(以下「EDINET」という。)に開示書類を XBRL (eXtensible Business Reporting Language)形式により提出する際に必須となる報告書インスタンスを作成するためのガイドライン(指針)となります。

報告書インスタンスは、原則として、本書に従って作成して下さい。

1-2 前提となる文書

報告書インスタンスは、EDINETにおいて正しく受理・審査・縦覧されるためにXBRLの仕様や指針に従って作成するものとします。また、報告書インスタンスが前提とするタクソノミは企業別タクソノミであり、企業別タクソノミは当庁が定めるガイドラインに従って作成するものとします。本書が前提とするXBRLの仕様や指針、当庁が定めるガイドラインは表 1-1 の通りとなります。但し、本書と表 1-1 の文書において不整合がある場合、本書を優先して下さい。

表 1-1 本書の前提となる文書

No	文書名
1	XBRL Specification 2.1
2	FRIS(Financial Reporting Instance Standards) Public Working Draft 2004-11-14
3	企業別タクソノミ作成ガイドライン

1-3 本書の適用範囲

本書は企業別タクソノミを利用して、報告書インスタンスを作成する際に適用されます。

2. 報告書インスタンスの概要

2-1 報告書インスタンスとは

EDINET を用いて有価証券報告書等を提出する企業等(以下「提出会社」という。)が、有価証券報告書等に含まれる財務諸表を XBRL 形式により提出する場合、XBRL のタクソノミが必要となります。EDINET で扱う XBRL のタクソノミには、当庁が提供する EDINET タクソノミと、EDINET タクソノミをベースタクソノミとして提出会社が作成する企業別タクソノミがあります。提出会社は企業別タクソノミを作成し、企業別タクソノミから報告書インスタンスを作成した上で、EDINET に企業別タクソノミと報告書インスタンスを提出します。EDINET タクソノミ及び企業別タクソノミについての詳細は、「企業別タクソノミ作成ガイドライン」を参照して下さい。EDINET で利用するタクソノミとインスタンスの全体像を「企業別タクソノミ作成ガイドライン」添付「EDINET で利用するタクソノミとインスタンスの全体像」に示します。

2-2 報告書インスタンスの作成単位

報告書インスタンスの作成単位は、有価証券報告書、四半期報告書、半期報告書等の報告書の単位で1つです。

企業別タクソミの作成単位も報告書毎に1つであり、1つの報告書インスタンスは1つの企業別タクソミを参照します。(添付「EDINET で利用するタクソミとインスタンスの全体像」参照)

但し、シリーズファンドのように1つの開示書類において、複数の財務諸表をXBRL形式で提出する必要があるファンド等(以下、「シリーズファンド等」という。)の場合、財務諸表の単位で企業別タクソミは1つ、報告書インスタンスも1つとなります。(図 2-1 参照)

本書では、報告書インスタンスが schemaRef 要素を用いて企業別タクソミを読み込むことを、「参照する」といいます。

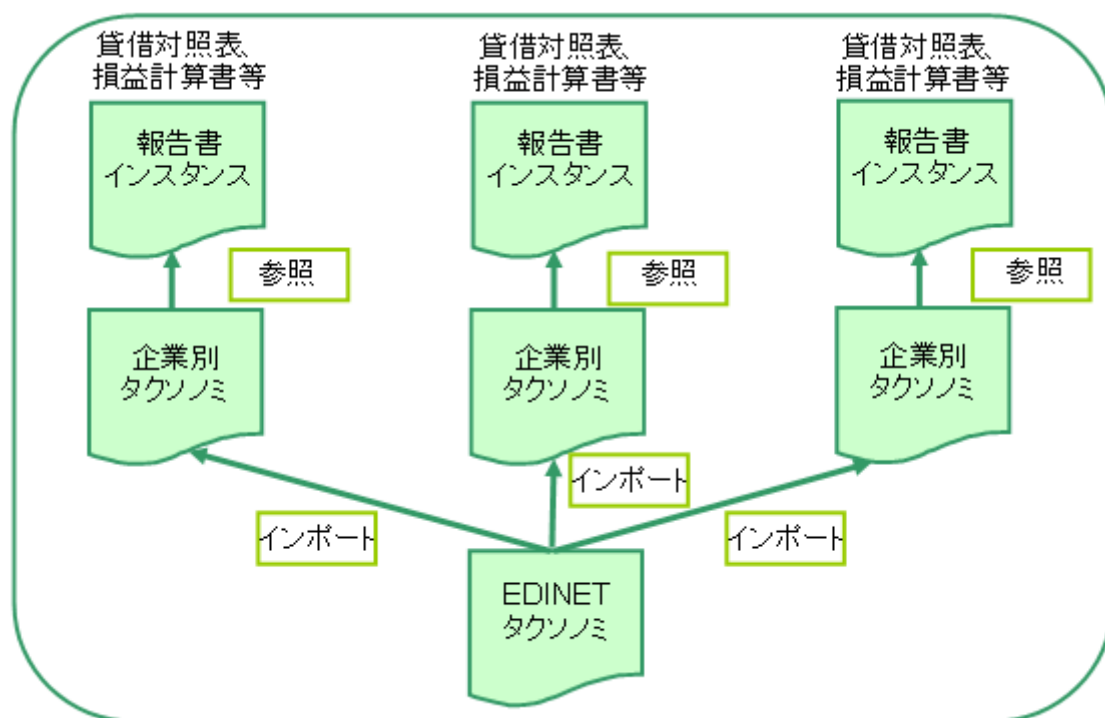


図 2-1 複数の財務諸表を XBRL 形式で提出する場合

2-3 雛形インスタンス

報告書インスタンスを効率よく作成するために、雛形インスタンスが提供されています。雛形インスタンスでは、報告書インスタンスを作成する上で必要となるコンテキストやユニットなどが設定されています。

2-4 サンプルインスタンス

本書に従って作成した報告書インスタンスの例が、サンプルインスタンスです。報告書インスタンスを作成する際の参考として下さい。

3. 報告書インスタンスのファイル仕様

3-1 報告書インスタンスのファイル構成

報告書インスタンスは、図 3-1 の通り大きく 6 つの部分から成り立っています。報告書インスタンスにおけるこれらの記載順序も下記の通りです。

- 名前空間宣言
利用する名前空間のプレフィックスを宣言します。
- 企業別タクソノミの参照
企業別タクソノミへの参照を設定します。
- コンテキストの定義
報告する会計年度や報告主体について定義します。
- ユニットの定義
報告する通貨などの単位を定義します。
- インスタンス値の記載
金額情報等、実際の会計数値等の情報を設定します。
- フットノートリンク
注記がある場合、注記番号を設定します。

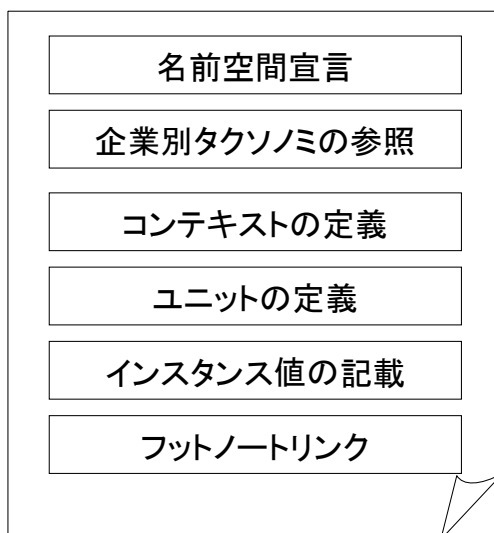


図 3-1 報告書インスタンスの構造

注意：報告書インスタンスでは、linkbaseRef、arcroleRef を使用しないものとします。

3-2 報告書インスタンスの文字コード

報告書インスタンスで使用する文字コード(エンコーディング形式)は、UTF-8 とします。

3-3 報告書インスタンスのファイル名

報告書インスタンスのファイル命名規約は次の通りです。設定値を表 3-1 に、設定例を図 3-2 に示します。

ファイル名：

jpfr-{報告書}-{EDINET コード又はファンドコード}-{追番}-{報告対象期間期末日}-{提出回数}-{提出日}.xbrl

表 3-1 報告書インスタンスのファイル名の命名規約で用いられる値

No	項目	設定値	説明
1	{報告書}	asr	有価証券報告書
2		q{数値}r	四半期報告書 数値は、第{数値}四半期の報告書を示します。
3		ssr	半期報告書
4		srs	有価証券届出書
5	{EDINET コード又はファンドコード}	英数字	EDINET コード又はファンドコード
6	{追番}	数値	数値は3桁の000から開始し、1ずつ増加させます。{追番}には複数の財務諸表を区別する意味があり、報告書インスタンスが複数の場合、報告書インスタンスの順序を示します。
7	{報告対象期間期末日}	YYYY-MM-DD	報告書の対象期間の期末日 ※ 半期報告書においては、中間会計期間の末日を、四半期報告書においては、四半期会計期間の末日を設定します。 ※ 有価証券届出書においては、最近事業年度末日を設定します。 (例：最近2事業年度の財務諸表と最近事業年度の次の事業年度に係る中間財

			務諸表を記載している場合、最近事業年度末日を設定します。)
--	--	--	-------------------------------

No	項目	設定値	説明
8	{提出回数}	数値 (2 桁)	最初の報告を 01 とし、同一年度、同一の報告書について XBRL データを再提出するごとに 1 ずつ増やします。 ※ 同一提出日における提出回数ではありません。 ※ 02 以上のものは修正再提出されたものとみなされます。 ※ 企業別タクソノミと提出回数をあわせるものとします。詳細は「10-1 XBRL データの修正再提出時の取扱いについて」を参照して下さい。
9	{提出日}	YYYY-MM-DD	報告書の提出日 ※ XBRL データを修正再提出する場合には、当該修正再提出する日を設定します。

条件

対象書類：有価証券報告書

EDINET コード：X99999

追番：000

報告対象期間期末日：2006 年 3 月 31 日

提出回数：初回提出

提出日：2006 年 6 月 28 日

ファイル名

jpfr-asr-X99999-000-2006-03-31-01-2006-06-28. xbrl

図 3-2 報告書インスタンスのファイル名の例

3-4 雛形インスタンスのファイル仕様

3-4-1 雛形インスタンスの設定内容

雛形インスタンスには表 3-2 の設定値が事前に設定されています。説明欄に記載の通り修正して利用できます。なお、{報告書}は表 3-1 の通りです。

表 3-2 雛形インスタンスの定義内容

No	項目	設定値	説明
1	名前空間宣言	表 4-1	提出会社の企業別タクソノミにあわせて修正します。
2	企業別タクソノミの参照	jpfr-{報告書}-000000-000-YYYY-MM-DD-01-YYYY-MM-DD.xsd	提出会社の企業別タクソノミにあわせて修正します。
3	コンテキストの定義	3 月期決算の提出者が使用するコンテキスト	提出者の会計期間にあわせて修正します。
4	ユニットの定義	表 11-2	金額。特別な理由がない限り修正不要です。
5	インスタンス値の記載	設定なし	報告内容にあわせて設定します。
6	フットノートリンク	設定なし	報告内容にあわせて設定します。

3-4-2 雛形インスタンスのファイル名

雛形インスタンスのファイル名は次の規約に従っています。なお、{報告書}は表 3-1 の通りです。

ファイル名 : jpfr-{報告書}-template.xbrl

4. 名前空間宣言

4-1 報告書インスタンスの名前空間宣言

報告書インスタンスの名前空間宣言において宣言しなければならない名前空間URIは表 4-1 の通りです。表 4-1 に記載された以外の名前空間URIを宣言しないものとします。また、表 4-1 に記載された名前空間URIであっても、報告書インスタンス内で未使用の名前空間URIは設定しないものとします。

使用する名前空間プレフィックスの名称は、表 4-1 に記載されているものを利用するものとします。

表 4-1 報告書インスタンスの名前空間宣言

No	名前空間 プレフィックス	名前空間 URI	備考
1	xbrli	http://www.xbrl.org/2003/instance	XBRL 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
2	xsi	http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance	XML Schema 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
3	xlink	http://www.w3.org/1999/xlink	XLink 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
4	link	http://www.xbrl.org/2003/linkbase	XBRL 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
5	iso4217	http://www.xbrl.org/2003/iso4217	インスタンスの unit で利用する通貨コードについての名前空間宣言
6	企業別タクソノミと同一の名前空間プレフィックス	参照先となる企業別タクソノミの名前空間 URI	詳細は「企業別タクソノミ作成ガイドライン」を参照して下さい。

No	名前空間 プレフィックス	名前空間 URI	備考
7	ベースタクソノミが インポートしている 語彙タクソノミと同 一の名前空間プレフ ィックス	語彙タクソノミの名前 空間 URI	ベースタクソノミがインポートして いる語彙タクソノミについては「企 業別タクソノミ作成ガイドライン」 の添付「タクソノミー一覧と根拠とな る法令等について」を参照して下さ い。 なお、すべての業種別財務諸表語彙 タクソノミは財務諸表等語彙タクソ ノミをインポートしているため、財 務諸表等語彙タクソノミの名前空間 プレフィックスも宣言することとな ります。
8	企業別タクソノミが インポートしている 語彙タクソノミと同 一の名前空間プレフ ィックス	語彙タクソノミの名前 空間 URI	企業別タクソノミで業種別財務諸表 語彙タクソノミをインポートしてい る場合、業種別財務諸表語彙タクソ ノミの名前空間 URI と名前空間プレ フィックスも宣言することとなりま す。 詳細は「企業別タクソノミ作成ガイ ドライン」を参照して下さい。
9	jpfr-di	http://info.edinet-fs a.go.jp/jp/fr/gaap/o/ di/{公開日}	文書情報タクソノミの名前空間 URI。 詳細は「8-2 文書情報の入力」を参 照して下さい。 {公開日} は、EDINET タクソノミの ファイル名等に設定されている日付 を指します。
10	jpfr-oe	http://info.edinet-fs a.go.jp/jp/fr/gaap/o/ oe/{公開日}	勘定科目及び報告項目以外の要素の 定義。 詳細は「6-5シナリオ要素の設定」を 参照して下さい。 {公開日} は、EDINET タクソノミの ファイル名等に設定されている日付 を指します。

5. 企業別タクソノミの参照

5-1 企業別タクソノミの参照方法

報告書インスタンスは、報告対象となる企業別タクソノミを schemaRef 要素の href 属性を用いて参照します。その際に、指定する企業別タクソノミのスキーマファイルは相対パスで指定します。提出先の EDINET において、同一フォルダ内に企業別タクソノミが配置されることを前提とするため、ファイル名のみを指定するものとします。

なお、報告書インスタンスは、報告対象となる企業別タクソノミのみを参照します。(EDINET タクソノミを直接参照しないものとします。)

報告書インスタンスと企業別タクソノミの参照関係を 図 5-1 に示します。

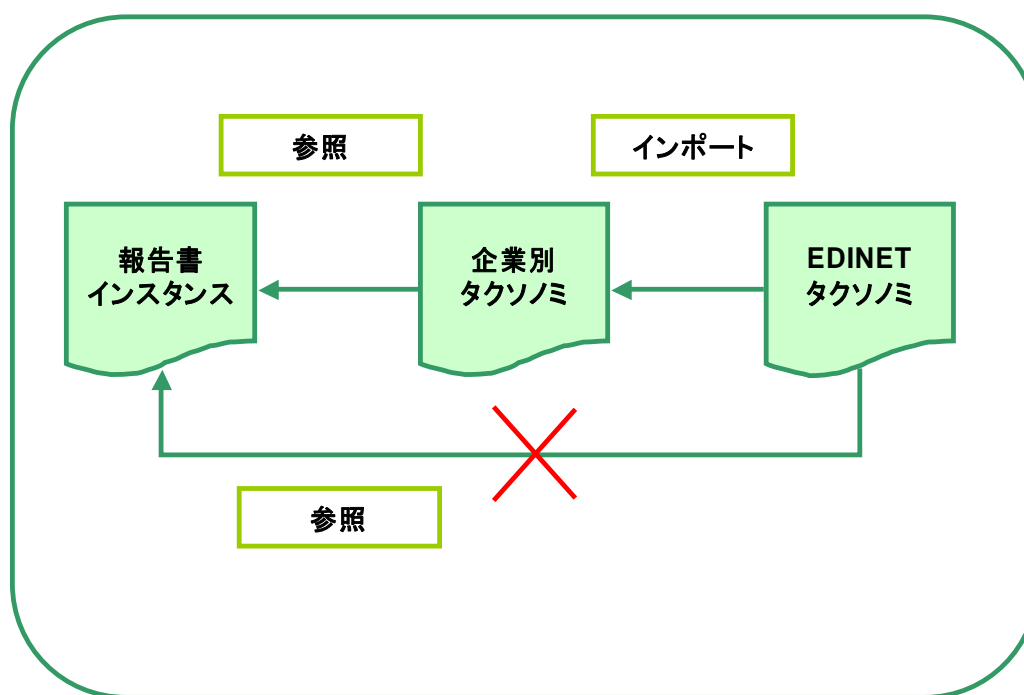


図 5-1 報告書インスタンスと企業別タクソノミの参照関係

6. コンテキストの定義

提出会社は会計情報の報告主体や会計期間などの情報を表現するためにコンテキストを設定し、インスタンス値は適切なコンテキストを参照するものとします。

コンテキストに設定する内容は、id 属性、エンティティ (entity) 要素、期間時点 (period) 要素、シナリオ (scenario) 要素です。

6-1 コンテキストの作成

通常の提出会社が、有価証券報告書で作成するコンテキストを表 6-1 に、四半期報告書で作成するコンテキストを表 6-2 に、半期報告書で作成するコンテキストを表 6-3 に、有価証券届出書で作成するコンテキストを表 6-4 に示します。

表 6-1～表 6-4 は、No毎に作成対象のコンテキストの種類を記載し、当該コンテキストを使用する財務諸表の欄に○を記載しています。使用しない、又は該当しない場合、ハイフン (-)、一部の勘定科目のみ使用する場合、(一部)と記載しています。Noの欄が括弧で記載されている場合、当該コンテキストは作成しないものとします。その場合、備考欄に記載のコンテキストを使用します。

外国会社等が外貨建ての金額と円貨建ての金額を併記する場合の設定については、「10-5 外国会社等の円貨併記の取扱い」を参照して下さい。

表 6-1 有価証券報告書のコンテキスト一覧(連結と個別で別のコンテキスト作成)

No	会計年度	期間・時点	コンテキストを使用する財務諸表				備考
			貸借 対照表	損益 計算書等	キャッシ ュ・フロ ー計算書	株主資本 等変動 計算書等	
1	提出日	時点	-	-	-	-	文書情報用
2	当期	期末時点	○	(一部)	○	○	
3		期中	-	○	○	○	
(4)		(期首時点)	-	-	-	-	No5 を利用
5	前期	期末時点	○	(一部)	○	○	
6		期中	-	○	○	○	
(7)		(期首時点)	-	-	-	-	No8 を利用
8	前々期	期末時点	-	(一部)	○	○	

表 6-2 四半期報告書のコンテキスト一覧(連結と個別で別のコンテキスト作成)

No	会計年度	期間・時点	コンテキストを使用する財務諸表				備考
			貸借 対照表	損益 計算書等	キャッシ ュ・フロ ー計算書	株主資本 等変動 計算書等	
1	提出日	時点	-	-	-	-	文書情報用
2	当四半期	期末時点	○	(一部)	○※1	-	
3	会計期間	期中	-	○	-	-	
(4)		(期首時点)	-	-	-	-	No5 を利用
5	前四半期 会計期間	期末時点	-	(一部)	-	-	
6	前年度 同四半期 会計期間	期末時点	-	(一部)	○※2	-	
7		期中	-	○	-	-	
(8)		(期首時点)	-	-	-	-	No9 を利用
9	前年度 前四半期 会計期間	期末時点	-	(一部)	-	-	
(10)	当四半期	(期末時点)	-	-	-	-	No2 を利用
11	累計期間	期中	-	○	○	-	
(12)		(期首時点)	-	-	-	-	No16 を利用
(13)	前年度	(期末時点)	-	-	-	-	No6 を利用
14	同四半期 累計期間	期中	-	○	○	-	
(15)		(期首時点)	-	-	-	-	No17 を利用
16	前年度	期末時点	○	(一部)	○	-	
17	前々年度	期末時点	-	(一部)	○	-	

注：2～9の損益計算書等は、第2四半期以降作成することとなります

※1：当四半期累計期間の財務諸表でコンテキストを使用します。

※2：前年度同四半期累計期間の財務諸表でコンテキストを使用します。

表 6-3 半期報告書のコンテキスト一覧(連結と個別で別のコンテキスト作成)

No	会計年度	期間・時点	コンテキストを使用する財務諸表				備考
			貸借 対照表	損益 計算書等	キャッシ ュ・フロ ー計算書	株主資本 等変動 計算書等	
1	提出日	時点					文書情報用
2	当期中間	期末時点	○	(一部)	○	○	
3		期中	-	○	○	○	
(4)		(期首時点)	-	-	-	-	No8 を利用
5	前期中間	期末時点	○	(一部)	○	○	
6		期中	-	○	○	○	
(7)		(期首時点)	-	-	-	-	No11 を利用
8	前期	期末時点	○	(一部)	○	○	
9		期中	-	○	○	○	
(10)		(期首時点)	-	-	-	-	No11 を利用
11	前々期	期末時点	-	(一部)	○	○	

表 6-4 有価証券届出書のコンテキスト一覧(連結と個別で別のコンテキスト作成)

No	会計年度	期間・時点	コンテキストを使用する財務諸表				備考
			貸借 対照表	損益 計算書等	キャッシ ュ・フロ ー計算書	株主資本 等変動 計算書等	
1	提出日	時点	-	-	-	-	文書情報用
2	前期	期末時点	○	(一部)	○	○	
3		期中	-	○	○	○	
(4)		(期首時点)	-	-	-	-	No5 を利用
5	前々期	期末時点	○	(一部)	○	○	
6		期中	-	○	○	○	
(7)		(期首時点)	-	-	-	-	No8 を利用
8	前々々期	期末時点	-	(一部)	○	○	
9	当四半期	期末時点	○	(一部)	○*	-	
10	会計期間	期中	-	○	-	-	
(11)		(期首時点)	-	-	-	-	No12 を利用

No	会計年度	期間・時点	コンテキストを使用する財務諸表				備考
			貸借 対照表	損益 計算書等	キャッシ ュ・フロ ー計算書	株主資本 等変動 計算書等	
12	前四半期 会計期間	期末時点	-	(一部)	-	-	
(13)	当四半期	(期末時点)	-	-	-	-	No9 を利用
14	累計期間	期中	-	○	○	-	
(15)		(期首時点)	-	-	-	-	No2 を利用
16	当期中間	期末時点	○	(一部)	○	○	
17		期中	-	○	○	○	
(18)		(期首時点)	-	-	-	-	No2 を利用

注：9～18 は、提出時期により作成することとなります

※：当四半期累計期間の財務諸表でコンテキストを使用します。

注意 1：報告書インスタンスでは期首時点のコンテキストを作成しないものとします。

詳細は「6-4-1期首日時点のコンテキストの作成」を参照して下さい。

注意 2：損益計算書等の期末時点のコンテキストは、例えば投資信託受益証券の損益及び剰余金計算書の期首剰余金、期末剰余金を意味する場合、作成することとなります。

注意 3：文書情報用コンテキストは、報告する財務諸表単位で1つ作成します。

表 6-1～表 6-4 のように、有価証券報告書では合計 11 種類(連結・個別それぞれ 5 種類、文書情報 1 種類)、四半期報告書では合計 11 種類(連結・個別いずれか 10 種類、文書情報 1 種類)、半期報告書では合計 15 種類(連結・個別それぞれ 7 種類、文書情報 1 種類)、有価証券届出書では合計 11 種類(連結・個別それぞれ 5 種類、文書情報 1 種類) 又は 15 種類(四半期の財務情報を報告する場合、前期と前々期の報告部分：連結・個別それぞれ 5 種類、四半期の報告部分：連結・個別いずれか 4 種類、文書情報 1 種類) 又は 15 種類(半期の財務情報を報告する場合：連結・個別それぞれ 7 種類、文書情報 1 種類)のコンテキストを作成することとなります。

なお、インスタンス値から参照されない不要なコンテキストは設定しないものとします。雛形インスタンスには表 6-1～表 6-4 に記載のある全てのコンテキストが設定されているため、提出会社が雛形インスタンスを利用する場合、不要なコンテキストを削除するものとします。雛形インスタンスのコンテキストが不要となり、削除する必要がある例を表 6-5 に記載します。

また、コンテキスト ID が異なっても、エンティティ(entity)要素、期間時点(period)

要素、シナリオ（scenario）要素の設定が全て同じであるコンテキストを複数設定しないものとします。

表 6-5 必要なコンテキストの事例一覧

No	事例	削除すべきコンテキスト
1	連結財務諸表を作成しない場合	連結財務諸表に関する全てのコンテキスト ※四半期、半期の場合も同様です。
2	四半期連結財務諸表を作成する場合	個別財務諸表に関する全てのコンテキスト

6-2 命名規約

コンテキストのid属性に設定する値(以下、コンテキストID)については、「11-1コンテキストID」の命名規約に従って付与します。

6-3 エンティティ要素の設定

コンテキストのエンティティ(entity)要素は表 6-6 に準拠するものとします。

表 6-6 コンテキストのエンティティ(entity)要素の設定

No	項目	値
1	スキーム(scheme)	http://info.edinet-fsa.go.jp
2	識別子(identifier)	{EDINET コード}-{追番}
3	セグメント(segment)	設定なし

6-4 コンテキストの期間時点(period)要素の設定方法

コンテキストの期間時点(period)要素の子要素の設定は表 6-7 に準拠するものとします。

表 6-7 期間時点(period)要素の子要素の設定

No	期間・時点	要素名	要素の値
1	期間	期首日(startDate)	報告する会計期間(前期・当期)の期首日 YYYY-MM-DD 形式
2		期末日(endDate)	報告する会計期間(前期・当期)の期末日 YYYY-MM-DD 形式
3	時点	時点(instant)	報告する会計期間(前期・当期)の期末日 YYYY-MM-DD 形式 ※時点(instant)において期首日を意味する 場合、前会計期間の期末日で意味します。

6-4-1 期首日時点のコンテキストの作成

報告書インスタンス上において期首日時点の意味するコンテキストを作成しないものとします。期首日時点の残高を報告する際には、前期の期末日時点のコンテキストを用いて報告します。

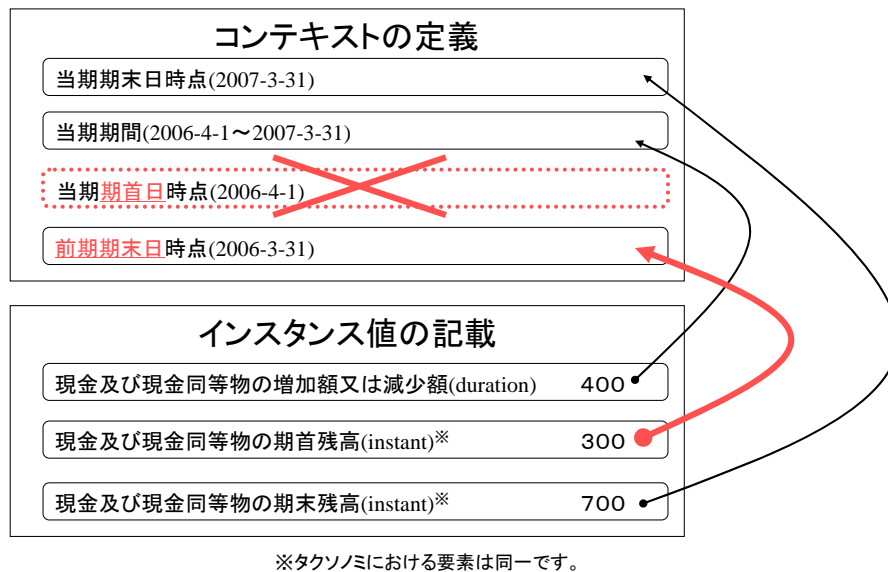


図 6-1 期首日時点のコンテキストの作成

図 6-1 のように、当期の期首日時点を意味するコンテキストは作成しないものとします。前期の期末日時点のコンテキストを作成し、インスタンス値の記載部分から参照して使います。

6-4-2 決算期を変更した場合の設定

決算期の変更を行った場合、コンテキストに、変更後の決算期の期首日 (startDate)、期末日 (endDate)、時点 (instant) を設定します。

6-5 シナリオ要素の設定

提出会社は報告する値が個別財務諸表を指す場合、コンテキストのシナリオ要素の値として「他要素スキーマ」の「NonConsolidated(個別財務諸表)」の要素を設定します。また、連結財務諸表を指す場合、コンテキストにシナリオを設定しないものとします。設定項目を表 6-8 に示します。

「他要素スキーマ」とは EDINET タクソノミで提供しているスキーマファイルであり、報告項目以外の要素は本スキーマで定義されています。

企業別タクソノミにおいて、個別財務諸表と連結財務諸表の両方で用いられている勘定科目(要素)は、同じ要素で定義されています。従って、報告書インスタンスにおいて報告する値が個別財務諸表のものか連結財務諸表のものはコンテキストで区別されます。

表 6-8 シナリオの設定

No	様式	設定項目	説明
1	個別財務諸表	<scenario> <jpfr-oe:NonConsolidated/> </scenario>	シナリオ要素に <jpfr-oe:NonConsolidated/> を設定します。
2	連結財務諸表	特になし	シナリオ要素の設定がない場合、 連結と判断します。

本書では EDINET タクソノミで提供されている「他要素スキーマ」の名前空間プレフィックスを「jpfr-oe」としています。

7. ユニットの定義

提出会社は提出する財務諸表の勘定科目の金額を意味するため、報告書インスタンスにユニットを設定するものとします。ユニットに設定する値は id 属性（以下、ユニット ID）と measure 要素です。

7-1 ユニットの設定

ユニットは勘定科目の金額を意味します。勘定科目の金額を日本円で記載する場合、日本円を意味する” JPY” をユニット ID に設定し、同様に日本円を意味する” iso4217:JPY” を measure 要素に設定します。

外国会社等が外貨建ての金額と円貨建ての金額を併記する場合の設定については、「10-5 外国会社等の円貨併記の取扱い」を参照して下さい。

なお、インスタンス値から参照されないユニットは報告書インスタンスに設定しないものとします。

ユニットIDの設定値の詳細は、「11-3ユニットID」を参照して下さい。

8. インスタンス値の記載

8-1 金額の入力

8-1-1 数値の精度

報告書インスタンスには円単位でデータを記載するものとします。例えば、「流動資産 4,543(千円)」という千円単位の金額をインスタンス上の値として記載するには0を補完し、「4543000」と円単位で表記します。インスタンス値の例を図 8-1 に示します。

【誤】	<CurrentAssets . . . (中略) . . . decimals="-3">4543</CurrentAssets>
【正】	<CurrentAssets . . . (中略) . . . decimals="-3">4543000</CurrentAssets>

図 8-1 インスタンス値の例

また、表示単位に満たない数値(千円単位であれば下 3 桁)の場合、たとえ正確な金額だとしても 0 以外の数字を入れないものとします。これは円単位から表示単位への変換において、表示単位に満たない金額が 0 以外の数値であった場合、金額の端数処理が発生してしまい、端数処理の解釈の余地が発生してしまうからです。例えば、表示単位が千円で千円未満の数字を正確に入れた場合、その数字を千円単位で表示するときに、切り捨て、切り上げ、四捨五入などの複数の解釈ができ、解釈によって表示される数値が異なってしまいます。

提出会社は財務諸表等規則等や業法等で定められた数値の精度(千円単位、百万円単位等)を表現するために表 8-1 に従ってdecimals属性を利用します。金額の表示単位と数値の精度は一致するものとします。また、decimals属性は、原則として、貸借対照表、損益計算書といった財務諸表毎に同一の値となることに留意して下さい。なお、外国会社等が同一の財務諸表内に外貨建ての金額と円貨建ての金額を併記する場合には、各通貨毎に異なるdecimals属性の値が設定されることがあります。

表 8-1 表示単位と decimals 属性の対応

No	単位	decimals 属性
1	円	0
2	千円	-3
3	百万円	-6

8-1-2 キャッシュ・フロー計算書の勘定科目の設定方法

キャッシュ・フロー計算書において特有の要素(勘定科目)については貸借(balance)属性が「設定なし」であり、要素の値の正負はキャッシュ・フロー計算書上のキャッシュに対してプラスの影響があるのか、マイナスの影響があるのかで判断されます。

キャッシュに対してプラスの影響があるものについては正の値で記載し、キャッシュに対してマイナスの項目については負の値で記載するものとします。

8-1-3 株主資本等変動計算書等の金額の設定

企業別タクソノミでは、株主資本等変動計算書等を表現する要素は、貸借対照表の純資産の要素を除くもの以外は、貸借区分(balance 属性)の設定がありません。詳細は「企業別タクソノミ作成ガイドライン」を参照して下さい。

報告書インスタンスに設定する値は、増加の場合、プラス、減少の場合、マイナスで記載します。

8-1-4 「該当なし」の設定

財務諸表内の勘定科目に対して該当なしの状態、「-(バー)」を意味するには報告書インスタンスでは当該要素の xsi:nil 属性に“true”を設定します。

8-1-5 「△0(マイナスゼロ)」の設定

財務諸表内の勘定科目に対して、「△0(マイナスゼロ)」を表現するには報告書インスタンスでは、当該要素に「-0」を設定します。

8-1-6 インスタンス値の設定に関する規約

インスタンス値(xsi:nil 属性が「true」を含む。以下同様)を設定する際には、以下の規約に従うことが必要です。

- ・ インスタンス値を設定した要素は表示リンク及び計算リンクの両方に出現するものとします。但し、計算リンクにおいて、期間・時点区分が異なり計算リンクを設定できない場合（「企業別タクソノミ作成ガイドライン」参照）及び他の要素との間に加減算関係が成り立たない場合は、この限りではありません。
- ・ 当該要素が出現する表示リンク及び計算リンクの拡張リンクロールは、提出会社がインスタンス値を報告することを意図する財務諸表の様式に対応したものであることが必要です。従って、ある要素は、同一の様式を示す表示リンクと計算リンクの拡張リンクロールに出現することが必要です。
- ・ 当該要素が出現する表示リンク及び計算リンクの拡張リンクロールと、インスタンス値が参照するコンテキストとは、文書情報において対応関係が設定されることが

必要です（文書情報の設定は「8-2 文書情報の入力」を参照してください）。

- ・ 計算リンクの加減算関係に基づきインスタンス値の検算（計算リンクにおける子の要素のインスタンス値の加減算結果と、親の要素のインスタンス値の整合性の確認）をした結果は、文書情報において設定された計算リンクの拡張リンクロールとコンテキストの組み合わせにおいて、端数差異（丸め誤差）等を除き原則として整合するものとします。提出会社は、検算結果に不整合があり、それが企業別タクソノミ又は報告書インスタンスの設定誤りに基づくものである場合には、適切な修正を行うことが必要です。
- ・ 文書情報の設定により報告対象外とされているコンテキストについては、インスタンス値を設定しないものとします。従って、文書情報に設定されていないコンテキスト（文書情報用コンテキストを除く）はインスタンス内に設定しないものとします。

8-2 文書情報の入力

8-2-1 開示対象者に関する情報の入力

拡張リンクロール「<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/EntityInfo>」にある項目は、開示対象者に関する情報です。開示対象者に関する情報は、表 8-2 に従って入力します。

原則として「開示対象者の名称（日本語・英語）」のみを入力します。シリーズファンド等で1つの報告書中に複数の財務諸表を記載する場合には、「開示対象者の総称（日本語・英語）」に当該シリーズファンド等の総称を、「開示対象者の名称（日本語・英語）」に個別ファンド名を入力します。

日本語名称として利用可能な文字は全角文字、半角英数及び半角記号です。半角カナ文字は利用しないものとします。英語名称として利用可能な文字は、半角英数及び半角記号です。英語名称として全角文字を利用しないものとします。

表 8-2 EntityInfo の入力方法

項目	要否	入力方法
開示対象者の名称(日本語)	◎	会社名、ファンド名など開示対象者の名称を日本語で入力します。
開示対象者の名称(英語)	△	会社名、ファンド名などの開示対象者の名称を英語で入力します。
開示対象者の総称(日本語)	○	開示対象者の総称(日本語)を入力します。
開示対象者の総称(英語)	△	開示対象者の総称(英語)を入力します。

◎：必須 ○：開示対象の総称が存在する場合に入力 △：英語の名称がある場合に入力

8-2-2 XBRL文書に関する情報の入力

拡張リンクロール

「<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/XBRLDocumentInfo>」にある項目は、XBRL文書に関する情報です。XBRL文書に関する情報は、表 8-3 に従って入力します。

表 8-3 XBRLDocumentInfo の入力方法

項目	要否	入力方法														
財務諸表種別 1 (「財務諸表」、「連結財務諸表」、「四半期財務諸表」、「四半期連結財務諸表」、「中間財務諸表」、「中間連結財務諸表」)	◎	報告する財務諸表の財務諸表種別 1 に「true」を入力します。 報告しない財務諸表種別 1 については、以下のいずれかで対応します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「false」を入力 ● xsi:nil 属性に「true」を設定 なお、「設定なし」ではなく、以上のいずれかを設定するものとします。														
財務諸表種別 2 (財務諸表種別 1 を構成する財務諸表、「連結貸借対照表」等)	△	報告する財務諸表の財務諸表種別 2 に「true」を入力します。 報告しない財務諸表種別 2 については、以下のいずれかで対応します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「false」を入力 ● xsi:nil 属性に「true」を設定 ● 設定なし 														
名称リンク拡張リンクロール	○	財務諸表種別 2 の財務諸表を表示する際の名称リンクの拡張リンクロールの URI を省略せず(「http://～」)に入力します。 <table border="1" data-bbox="810 1514 1362 1856"> <thead> <tr> <th>財務諸表種別 1</th> <th>URI^{※1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>財務諸表</td> <td>NonConsolidated</td> </tr> <tr> <td>連結財務諸表</td> <td>Consolidated</td> </tr> <tr> <td>四半期財務諸表</td> <td>NonConsolidatedQuarterly</td> </tr> <tr> <td>四半期連結財務諸表</td> <td>ConsolidatedQuarterly</td> </tr> <tr> <td>中間財務諸表</td> <td>NonConsolidatedInterim</td> </tr> <tr> <td>中間連結財務諸表</td> <td>ConsolidatedInterim</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 “http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/” に続くロールの名称のみを記載。</p>	財務諸表種別 1	URI ^{※1}	財務諸表	NonConsolidated	連結財務諸表	Consolidated	四半期財務諸表	NonConsolidatedQuarterly	四半期連結財務諸表	ConsolidatedQuarterly	中間財務諸表	NonConsolidatedInterim	中間連結財務諸表	ConsolidatedInterim
財務諸表種別 1	URI ^{※1}															
財務諸表	NonConsolidated															
連結財務諸表	Consolidated															
四半期財務諸表	NonConsolidatedQuarterly															
四半期連結財務諸表	ConsolidatedQuarterly															
中間財務諸表	NonConsolidatedInterim															
中間連結財務諸表	ConsolidatedInterim															

項目	要否	入力方法
列	△	財務諸表種別 2 の財務諸表を表示する際に表示する列に「true」を設定します。なお、列番号は左から数えます。 ● 決算期変更等で有価証券報告書の貸借対照表に当期のみ記載する場合、「2 列目」要素に「true」を入力するのではなく、「1 列目」要素に「true」を入力します。
表示リンク拡張リンクロール	○	列を表示する際の表示リンクの拡張リンクロールの URI を省略せず（「http://～」）に入力します。
計算リンク拡張リンクロール	○	列の加減算関係を検証する際の計算リンクの拡張リンクロールの URI を省略せず（「http://～」）に入力します。
計算リンク拡張リンクロール 2	△	列の加減算関係を検証する際の計算リンクの拡張リンクロールの URI を省略せず（「http://～」）に入力します。株主資本等変動計算書等、計算リンクの拡張リンクロールが複数ある場合、入力します。
期首コンテキスト ID	△	列を表示する際の期首コンテキストのコンテキスト ID を入力します。
期間コンテキスト ID	△	列を表示する際の期間コンテキストのコンテキスト ID を入力します。
期末コンテキスト ID	△	列を表示する際の期末コンテキストのコンテキスト ID を入力します。

凡例 ◎：必須 ○：親項目が「true」の場合に入力 △：報告対象の情報がある場合に入力

例えば、連結財務諸表、連結貸借対照表及び連結損益計算書の前期、当期の列を意味する値の入力の方法は、図 8-2 の通りです。

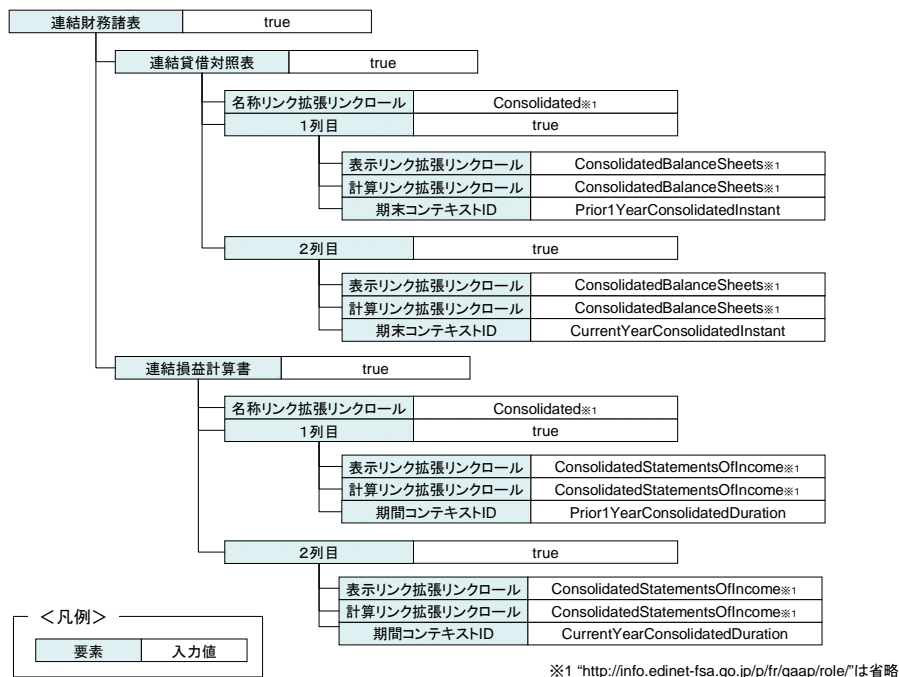


図 8-2 連結貸借対照表及び連結損益計算書の入力例

また、連結財務諸表、連結貸借対照表及び連結損益計算書の前期が報告対象ではない場合の入力方法は、図 8-3 の通りです。

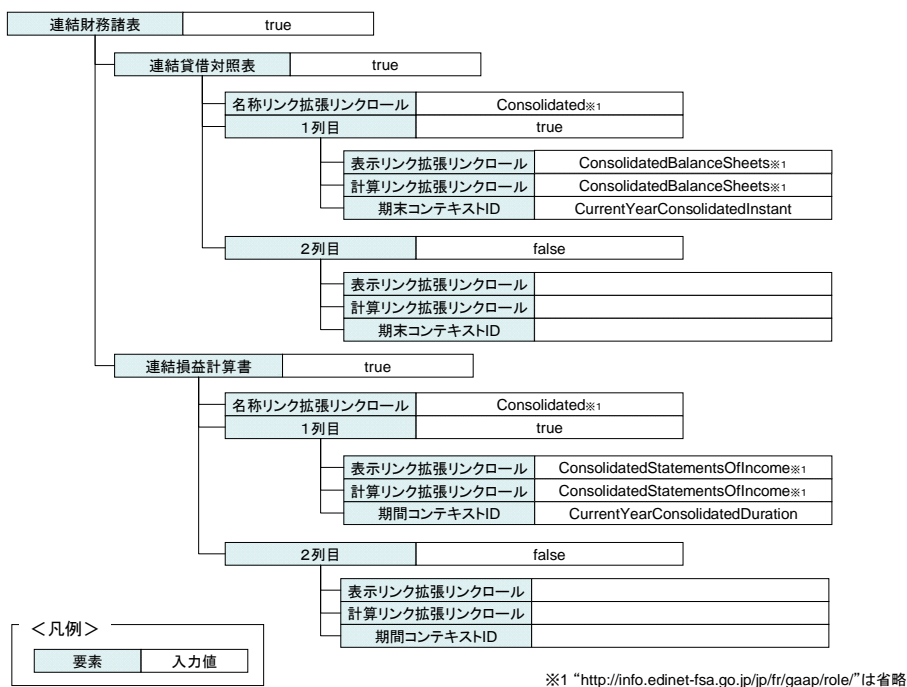


図 8-3 連結貸借対照表及び連結損益計算書の前期が報告対象ではない場合の入力例

8-3 参照するコンテキストの設定

入力した値が参照するコンテキストを設定します。コンテキストの参照はcontextRef属性を用います。参照するコンテキストの設定の例を図 8-4 に示します。

```
(コンテキストの定義)
<xbrli:context id="CurrentYearNonConsolidatedInstant">
. . .
</xbrli:context>
. . .
(インスタンス値の記載)
<Buildings contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">400000</Buildings>
```

図 8-4 参照するコンテキストの設定の例

8-4 参照するユニットの設定

入力した値が参照するユニットを設定します。ユニットの参照はunitRef属性を用います。参照するユニットの設定の例を図 8-5 に示します。

```
(金額のユニットの定義)
<xbrli:unit id="JPY">
. . .
</xbrli:unit>
. . .
(インスタンス値の記載)
<Buildings unitRef="JPY">400000</Buildings>
```

図 8-5 参照するユニットの設定の例

8-5 その他の留意事項

8-5-1 同一要素へのコンテキストの設定

報告書インスタンスにおいて同一の要素に同一のコンテキストとユニットは設定しないものとします。例えば、図 8-6 のように「建物 400,000」という勘定科目の金額を 2 つに分けて記載することはできない事に留意して下さい。

```
<Buildings unitRef="JPY" contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">100000</Buildings>  
<Buildings unitRef="JPY" contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">300000</Buildings>
```

図 8-6 認められないインスタンス値の例

9. 注記番号の記載

報告書インスタンス中で注記番号を意味する場合、フットノートリンクを使用します。フットノートリンクで設定する内容は表 9-1 の通りです。

表 9-1 フットノートリンクの設定

No	項目	内容	説明
1	設定の対象	注記番号が必須な個々の値	当期だけではなく、前期の値についても注記番号の設定を忘れないよう、留意して下さい。
2	利用するフットノートリンクの拡張リンクロール	表示リンクの拡張リンクロールと同じ拡張リンクロール	注記番号を付与する財務諸表を意味します。拡張リンクロールの一覧は「企業別タクソノミ作成ガイドライン」の添付「ロール一覧」を参照して下さい。
3	利用するフットノートリンクのリソースロール	表 9-2	注記番号の付し方を設定します。特に同一要素で、期首・期末を表す場合、このリソースロールで注記番号の付し方を指定することができます。
4	lang 属性	言語	言語を設定します。注記番号の言語は日本語を意味する” ja” とします。
5	order 属性	注記番号の順序	注記番号の順序を数値で設定します。同一の値に複数の注記番号を付す場合、それぞれ異なる order 属性値を設定するものとします。
6	値	注記事項に記載するものと同じ注記番号	注記事項の内容はここには記載しないものとします。注記番号が複数の場合、それぞれ別のフットノートを設定します。

表 9-2 フットノートリンクで使用するリソースロール一覧

No	リソースロール	説明
1	NotesNumber	期首・期末の区別なく注記番号を付す場合に設定します。
2	NotesNumberPeriodStart	期首のみに注記番号を付す場合に設定します。
3	NotesNumberPeriodEnd	期末のみに注記番号を付す場合に設定します。

リソースロールは“<http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/>”を省略

図 9-1 及び 図 9-2 は、建物と構築物に注記番号を付す場合のフットノートリンクの設定イメージとサンプルです。

	前事業年度 (平成17年3月31日)	当事業年度 (平成18年3月31日)
有形固定資産		
建物	※2, ※7 100	※2, ※7 120
減価償却累計額
構築物	※7 50	70
減価償却累計額

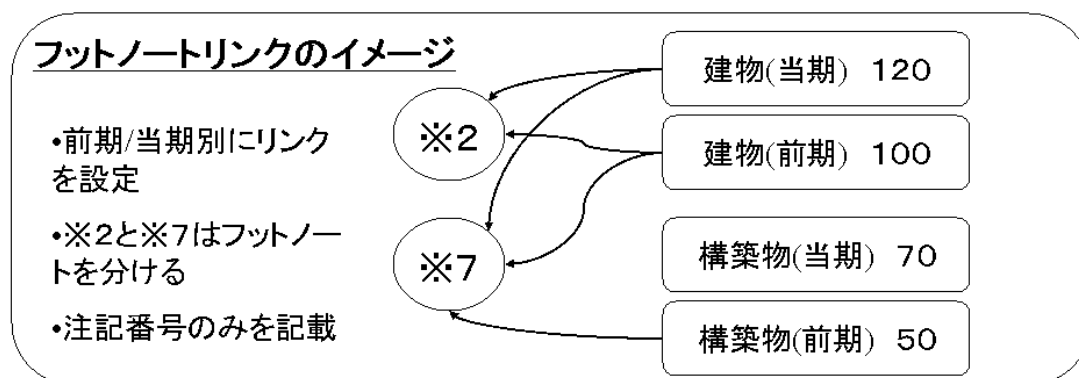


図 9-1 フットノートリンクの設定イメージ

(インスタンス値)

```
<Buildings id="f1" contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">120000</Buildings>
```

```
<Buildings id="f2" contextRef="Prior1NonConsolidatedInstant">100000</Buildings>
```

```
<Structures id="f3" contextRef="CurrentYearNonConsolidatedInstant">70000</Structures>
```

```
<Structures id="f4" contextRef="Prior1NonConsolidatedInstant">50000</Structures>
```

(フットノートリンク)

```
<link:footnoteLink                               xlink:role="http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/ConsolidatedBalanceSheets"
```

```
xlink:type="extended">
```

```
  <link:loc xlink:href="#f1" xlink:label="Buildings_f1" xlink:type="locator"/>
```

```
  <link:footnote                                   xlink:label="footnote_1"
```

```
xlink:role="http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/NotesNumber"
```

```
xlink:type="resource" xml:lang="ja">※2</link:footnote>
```

```
  <link:footnoteArc order="1.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Buildings_f1" xlink:to="footnote_1" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:footnote                                   xlink:label="footnote_2"
```

```
xlink:role="http://info.edinet-fsa.go.jp/jp/fr/gaap/role/NotesNumber"
```

```
xlink:type="resource" xml:lang="ja">※7</link:footnote>
```

```
  <link:footnoteArc order="2.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Buildings_f1" xlink:to="footnote_2" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:loc xlink:href="#f2" xlink:label="Buildings_f2" xlink:type="locator"/>
```

```
  <link:footnoteArc order="1.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Buildings_f2" xlink:to="footnote_1" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:footnoteArc order="2.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Buildings_f2" xlink:to="footnote_2" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:loc xlink:href="#f3" xlink:label="Structures_f3" xlink:type="locator"/>
```

```
  <link:footnoteArc order="1.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Structures_f3" xlink:to="footnote_2" xlink:type="arc"/>
```

```
  <link:loc xlink:href="#f4" xlink:label="Structures_f4" xlink:type="locator"/>
```

```
  <link:footnoteArc order="1.0" xlink:arcrole="http://www.xbrl.org/2003/arcrole/fact-footnote"
```

```
xlink:from="Structures_f4" xlink:to="footnote_2" xlink:type="arc"/>
```

```
</link:footnoteLink>
```

図 9-2 注記のサンプル

10. その他

10-1 XBRLデータの修正再提出時の取扱いについて

XBRL形式で提出する財務諸表に関する訂正は、訂正報告書等とともに、訂正後のXBRL形式書類を構成するファイル一式(企業別タクソノミ、報告書インスタンス、表示情報ファイル)を再提出することによって行います。また、財務諸表自体の訂正はなくとも、XBRLデータの修正が必要な場合にも同様にファイル一式を再提出することになります。

報告書インスタンスのみを修正し企業別タクソノミに変更がない場合や、企業別タクソノミのみ(例えばラベルのみ)を修正し報告書インスタンスに変更がない場合でも、ファイル一式を再提出するものとします。ファイルを再提出するので、ファイル命名規約に従い、ファイル一式の各ファイル名の{提出回数}をインクリメント(1ずつ増加)します。ファイル一式の各ファイル名の{提出回数}が一致していること、また、訂正報告書等の場合は、当該書類を提出した日がファイル名の提出日になっていることに留意して下さい。ファイルの命名規約については、本書の「3-3報告書インスタンスのファイル名」、「企業別タクソノミ作成ガイドライン」、「提出書類ファイル仕様書」を参照して下さい。

本書で特に断りがない限り、報告書インスタンス作成において初回提出か修正再提出かで、作成方法が変わることはありません。

10-2 XBRLデータの再利用について

有価証券報告書で記載した財務諸表と同一のものを有価証券届出書で記載する場合、又は特定有価証券において、有価証券報告書の提出により有価証券届出書の財務諸表を訂正するために、訂正届出書に有価証券報告書と同一の財務諸表を記載する場合など、複数の開示書類において、同一の財務諸表を記載する場合、一方で作成したXBRLデータをもう一方の開示書類のXBRLデータとして提出することが可能です。

なお、この場合においては、ファイル名等についても変更しないものとします。

10-3 株主資本等変動計算書等

「企業別タクソノミ作成ガイドライン」の通り、株主資本等変動計算書等の項目のうち「当期末残高」と「前期末残高」は、貸借対照表で定義した純資産の部の要素と同一です。

従って、貸借対照表の拡張リンクロールを用いて純資産の部の要素に金額とコンテキスト、ユニットを入力後、株主資本等変動計算書等の拡張リンクロールを用いて株主資本等変動計算書等を表示すると、「当期末残高」と「前期末残高」が入力済みとなっていること

が分かります。

反対に、株主資本等変動計算書等の拡張リンクロールを用いて表示した株主資本等変動計算書等の「当期末残高」と「前期末残高」に対して値を変更すると、貸借対照表の純資産の部に反映されます。

これは、貸借対照表の純資産の部と、株主資本等変動計算書等の「当期末残高」と「前期末残高」の値は完全一致しなければならないことを示しています。

10-4 検証に関する留意事項

インスタンスに対して計算リンクの検証を実施すると、計算リンクのサブツリー毎に、コンテキストとユニットの組み合わせで設定された値の加減算関係のチェックが行われず。

ところで、「企業別タクソノミ作成ガイドライン」で解説した通り、計算リンクには複数の拡張リンクロールが存在します。財務諸表の 2 期比較を意味するため財務諸表等規則等上の変更前と変更後の様式に関する拡張リンクロールや、連結と個別に関する拡張リンクロールがあるため、1つの要素に対して、拡張リンクロールで区別される複数の計算リンクが存在します。

EDINET タクソノミにおいては、文書情報タクソノミにより拡張リンクロールとコンテキストの組み合わせを紐付けることができます。正しい組み合わせを指定するための要素が、文書情報タクソノミの「計算リンク拡張リンクロール要素」及び「計算リンク拡張リンクロール要素 2」として用意されており、これらの要素に提出会社が意図する拡張リンクロールを設定して下さい。

拡張リンクロールとコンテキストの組み合わせが意図したものであるにも関わらず計算リンクの検証エラーがある場合、設定した数値やコンテキストの設定に誤りがある可能性があるため、設定の確認をして下さい。

なお、検証する環境によっては、提出会社が意図していない組み合わせの検証を行ってしまう場合があります。その場合においては、計算リンクの検証エラーとなりますが、これらは検証対象外として本来検証すべきものではないため、問題ないものとして取り扱うものとします。例えば、図 10-1 では、連結用の拡張リンクロールと連結用コンテキストの組み合わせは意図したものであるため検証対象ですが、個別用拡張リンクロールと連結用コンテキストの組み合わせは意図したのではないため検証対象外です。



図 10-1 拡張リンクロールとコンテキストの組み合わせについて

※拡張リンクロールとコンテキストの意図した組み合わせのみを検証します。

10-5 外国会社等の円貨併記の取扱い

外国会社等が提出する財務書類に掲記される科目その他の事項について、外貨建ての金額により表示している場合には、企業内容等の開示に関する内閣府令等に基づき、主要な事項について円貨に換算した金額を併記することとされています。この場合の取り扱いについて以下に記載します。

・コンテキスト ID を追加

外貨建て金額の記載用に所定のコンテキスト ID (「6. コンテキストの定義」参照) を設定します。加えて、円貨建て金額の記載用として末尾に「_2」が付くコンテキスト ID を設定します。

(例: PriorYearConsolidatedInstant_2、CurrentYearConsolidatedInstant_2)

・各コンテキストの設定

円貨建て金額の記載用に追加したコンテキストの期間時点 (period) 要素、スキーム (scheme)、セグメント (segment)、シナリオ (scenario) 要素は、対応する外貨建て金額記

載用のコンテキストと同一の値を設定します。識別子 (identifier) については、「X99001-001」のように追番を「000」から「001」に変更して設定します。(コンテキスト ID が異なっても、スキーマ、セグメント、識別子等の全ての値が同じである場合、FRIS2.4.1 のエラーとなります。)

・ 単位の設定

使用する外貨について ISO4217 で規定しているコードを設定します。(例: 中国元の場合、ユニット ID は「CNY」、measure は「iso4217:CNY」)

ユニット ID の詳細は「11-3 ユニット ID」を参照ください。

・ 表示情報ファイルの設定

<DecimalScale> や各列の <ColumnValue> に円貨及び外貨名を用いた表示単位を設定します。例えば、各列の見出しに表示単位を記載する場合には、<DecimalScale> には表示単位を設定せずに (但し、半角スペースの設定が必要です。)、各列の <ColumnValue> に「(単位: 百万円)」、「(単位: 百万元)」等を設定します。

表示情報ファイルの詳細は「提出書類ファイル仕様書」3章を参照ください。

11. 各種命名規約

11-1 コンテキストID

コンテキストIDの命名規約は表 11-1 の通りです。次の命名規約に従いコンテキストIDを設定するものとします。但し、提出日時点のコンテキストのコンテキストIDは表 11-1 に従わず「DocumentInfo」になります。

※外国会社等の円貨併記の取扱いは、「10-5 外国会社等の円貨併記の取扱い」を参照してください。

コンテキスト ID : {相対年度} {連結・個別} {期間・時点}

表 11-1 コンテキスト ID の設定値

No	項目	設定値	説明
1	{相対年度}	CurrentYear	当年度を意味します。
2		Interim	中間期を意味します。
3		Prior1Year	前年度を意味します。
4		Prior1Interim	前中間期を意味します。
5		Prior2Year	前々年度を意味します。
6		Prior {数値} Year	{数値} 年度前を意味します。
7		CurrentYTD	当四半期累計期間を意味します。
8		CurrentQuarter	当四半期会計期間を意味します。
9		Prior {数値} YTD	{数値} 年度前同四半期累計期間を意味します。
10		Prior {数値} Quarter	{数値} 年度前同四半期会計期間を意味します。
11		LastQuarter	前四半期会計期間を意味します。
12		Prior {数値} LastQuarter	{数値} 年度前の前四半期会計期間を意味します。
13	{連結・個別}	Consolidated	連結の報告を意味します。
14		NonConsolidated	個別の報告を意味します。
15	{期間・時点}	Instant	時点を意味します。
16		Duration	期間を意味します。

11-2 コンテキストの設定例

1) 提出日時点

コンテキスト ID		DocumentInfo
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	提出日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象の文書情報を報告するために利用します。

2) 当期連結時点

コンテキスト ID		CurrentYearConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる会計年度の期末日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

3) 当期連結期間

コンテキスト ID		CurrentYearConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる会計年度の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

4) 当期個別時点

コンテキスト ID		CurrentYearNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる会計年度の期末日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

5) 当期個別期間

コンテキスト ID		CurrentYearNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる会計年度の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

6) 前期連結時点

コンテキスト ID		Prior1YearConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる会計年度の前期の期末日時点(又は当期の期首日時点)の連結の財務情報を報告するために利用します。

7) 前期連結期間

コンテキスト ID		Prior1YearConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる会計年度の前期の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

8) 前期個別時点

コンテキスト ID		Prior1YearNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる会計年度の前期の期末日時点(又は当期の期首日時点)の個別の財務情報を報告するために利用します。

9) 前期個別期間

コンテキスト ID		Prior1YearNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる会計年度の前期の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

10) 当四半期会計期間連結時点

コンテキスト ID		CurrentQuarterConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる当四半期会計期間の期末日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

11) 当四半期会計期間連結期間

コンテキスト ID		CurrentQuarterConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当四半期会計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる当四半期会計期間の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

12) 前四半期会計期間連結時点

コンテキスト ID		LastQuarterConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる当四半期会計期間の期首日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

13) 当四半期累計期間連結期間

コンテキスト ID		CurrentYTDConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当四半期累計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当四半期累計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる当四半期累計期間の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

14) 当四半期会計期間個別時点

コンテキスト ID		CurrentQuarterNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる当四半期会計期間の期末日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

15) 当四半期会計期間個別期間

コンテキスト ID		CurrentQuarterNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当四半期会計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる当四半期会計期間の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

16) 前四半期会計期間個別時点

コンテキスト ID		LastQuarterNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる当四半期会計期間の期首日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

17) 当四半期累計期間個別期間

コンテキスト ID		CurrentYTDNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当四半期累計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当四半期累計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる当四半期累計期間の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

18) 前年度同四半期会計期間連結時点

コンテキスト ID		Prior1QuarterConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度同四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる四半期会計期間の前期の期末日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

19) 前年度同四半期会計期間連結期間

コンテキスト ID		Prior1QuarterConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度同四半期会計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度同四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる四半期会計期間の前期の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

20) 前年度前四半期会計期間連結時点

コンテキスト ID		Prior1LastQuarterConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度前四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる四半期会計期間の前期の期首日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

21) 前年度同四半期累計期間連結期間

コンテキスト ID		Prior1YTDConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度同四半期累計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度同四半期累計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる四半期累計期間の前期の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

22) 前年度同四半期会計期間個別時点

コンテキスト ID		Prior1QuarterNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度同四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる四半期会計期間の前期の期末日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

23) 前年度同四半期会計期間個別期間

コンテキスト ID		Prior1QuarterNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度同四半期会計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度同四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる四半期会計期間の前期の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

24) 前年度前四半期会計期間個別時点

コンテキスト ID		Prior1LastQuarterNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度前四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる四半期会計期間の前期の期首日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

25) 前年度同四半期累計期間個別期間

コンテキスト ID		Prior1YTDNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度同四半期累計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度同四半期累計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる四半期累計期間の前期の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

26) 当中間期連結時点

コンテキスト ID		InterimConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる中間会計年度の期末日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

27) 当中間期連結期間

コンテキスト ID		InterimConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる中間会計年度の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

28) 当中間期個別時点

コンテキスト ID		InterimNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる中間会計年度の期末日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

29) 当中間期個別期間

コンテキスト ID		InterimNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる中間会計年度の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

30) 前中間期連結時点

コンテキスト ID		Prior1InterimConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる中間会計年度の前期の期末日時点の連結の財務情報を報告するために利用します。

31) 前中間期連結期間

コンテキスト ID		Prior1InterimConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		設定なし
説明		報告対象となる中間会計年度の前期の期間の連結の財務情報を報告するために利用します。

32) 前中間期個別時点

コンテキスト ID		Prior1InterimNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる中間会計年度の前期の期末日時点の個別の財務情報を報告するために利用します。

33) 前中間期個別期間

コンテキスト ID		Prior1InterimNonConsolidatedDuration
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる中間会計年度の前期の期間の個別の財務情報を報告するために利用します。

34) 前々期連結時点

コンテキスト ID		Prior2YearConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前々年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		設定なし
説明		報告対象となる前年度もしくは前中間期の期首日時点での連結の財務情報を報告するために利用します。

35) 前々期個別時点

コンテキスト ID		Prior2YearNonConsolidatedInstant
entity	scheme	http://info.edinet-fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前々年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario		<jpfr-oe:NonConsolidated/>
説明		報告対象となる前年度もしくは前中間期の期首日時点での個別の財務情報を報告するために利用します。

11-3 ユニットID

ユニットIDの命名規約は表 11-2 の通りです。

表 11-2 日本円のユニット

ユニット ID	JPY
measure	iso4217:JPY
説明	金額の単位として使用

※iso4217 の名前空間 URI は、“<http://www.xbrl.org/2003/iso4217>” です。

※外国会社等の円貨併記の取扱いは、「10-5 外国会社等の円貨併記の取扱い」を参照してください。